

編集後記

前号で紹介のありました通り、本和文誌の編集委員会は年4回開かれ、毎回特集号のテーマ他について熱い議論を繰り広げております。他雑誌での、通り一遍の報告のみが主体の編集委員会とは明らかに一線を画す、密度の濃いものであると自負しております。これは日本人工臓器学会の諸先輩方の築き上げられたよき伝統であり、これからも守っていかねばと思っております。本号でも「人工臓器と再生医療の融合」といういま最もホットな話題を取り上げ、特集を組みました。他にもこんな特集をやってほしい、本和文誌に対してのご要望や評価など、会員諸氏からのフィードバックがあれば編集委員一同ますます励みになりますと思いますので、是非ご意見をお寄せください。

(FastEddie)

4年に一度の世界バイオマテリアル大会でカナダに来ています。多くの研究者が集合し、企業展示も盛況で、にぎやかな大会となっています。一方で、近年の傾向として、中国・韓国のプレゼンスの増加と日本のその衰退が感じられます。日本人の参加者の数もかつてほどではなく、高齢化の様相を示しています。バイオマテリアル研究に限ったことではないかもしれませんが、留学している学生・教員が減っていることも気になります。大学の国際化が求められていますが、学生も教員も海外に出る機会と動機が得られていないと思います。要因はいろいろあると思いますが、なんとかしないと国際連携もままならず、世界の第一線からおいていかれることになりかねないと思います。

(編集委員K)

本年4月16日、不幸にも熊本で大地震が発生してしまいました。本地震で犠牲になられた方々に心からお悔やみ申し上げます。また、被災され不自由な生活を現在も強いられているすべ

ての方々の一日も早い復興をお祈り申し上げます。阪神・淡路大震災を契機に、我が国では災害時医療が大きな進化を遂げました。今回の地震でも全国のDMATが待機する中、近隣のDMATが素早く現地に派遣されました。さらには、全国知事会からの要請で全国の医療班も招集されました。また、溢れんばかりのボランティアの方々も九州を目指したことは記憶に新しいところです。全国民が一丸となって本大震災に立ち向かっています。このような中、我々日本人工臓器学会は何ができるのでしょうか？震災を含めた災害時に役立つ人工臓器を、皆で一丸となって開発する必要があるのではないかと最近強く感じています。災害医療に特化した人工臓器、例えば屋外で使用可能な人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置などを開発するプロジェクトを立ち上げてみようかもしれないと思う今日この頃です。

(編集委員M)

日本は技術先進国であることは言うまでもないことかもしれませんが。自動車をはじめとした多くの分野で世界の最先端に位置しています。一方で、世界から取り残されている分野もありますが、近年今後の成長を期待させる分野もあります。医療機器の分野、特に本学会の主題である人工臓器ではどうでしょうか。世界最先端にある領域もありますが、後れを取っている領域も多々あります。例えば循環器領域では、ペースメーカー、人工心臓、人工弁、人工血管などでは未だに海外製品が主流です。医療産業、本学会の主題である人工臓器に関する発展はやはりどうしても遂げていかなくてはならない課題であると私は信じています。そのため小さくとも歩み続けることが大切で、本学会の和文、英文各雑誌を充実させていくこともその道につながっているのだと考えています。

(編集委員N)